

夏の反省：帽子をかぶりましょう

今年の夏は、「帽子・長袖・長ズボンを用意していない学校があった」というのが印象に残っています。

1. 強烈な太陽光線は積乱雲を発達させるため、夏休み期間中は殆ど毎日雷注意報が出され、雷は子どもたちにとって直接的な脅威になります。雷注意報が出ていると、雨が降っていなくても野外を歩く活動の変更を余儀なくされることがあります。子どもたちが楽しみにしているキャンプファイヤーを中止せざるを得ない日もあります。また、積乱雲は夏特有の雲ですが、不意に発生するゲリラ雨に打たれると、夏場でも一時的な低体温状態になる危険があります。

2. 夏は太陽光線が真上から照り付ける格好になるため、他の季節に比べて気温が上がります。結果的に蚊やダニその他の有害生物による被害の危険性が高まります。真夏は、他の季節以上にこうした種類の安全対策に手間がかかる時期です。

3. 熱中症以外にも、真夏の日射しは、子どもたちにとって凶器となり得ます。真夏の野外活動では、帽子・長袖・長ズボンを準備して、頭部や素肌を保護し、危険な紫外線に対して万全の対策を整えましょう。

【帽子の七つの効用】

① 識別

運動会の赤白帽やカープの赤ヘルなど、所属を表したり帰属意識を高めたりする。警察官や船長、機長、駅長の帽子など、責務や役職を表したりする。



② 防護

ヘルメット代わりに。ハット型の帽子は、雨よけにも。害虫から首筋を守る効果もあります(注意:雷に対しては全く無力です)。

③ 防寒

人体から発生する熱は、その60%以上が頭部から放出されているので、寒い時は帽子をかぶるのが効果的。

④ 遮光

頭部が過熱するのを防ぐ。日焼けも防ぐ。眼球を通して入ってくる紫外線も低減する。

⑤ 視界の確保

乗用車のサンバイザーや写真用レンズフードと同じ。つばを活用して余分な光をカットすると、対象物が驚くほどクリアに見える。

⑥ 入れ物として

木の実を集めて入れたり水を運んだり。

⑦ 注意喚起

黄色や蛍光ピンクの幼稚園帽子など。水泳帽子も、できれば派手で目立つ色の方がよい。



地図作成など、炎天下で長時間作業をしなければならないときは、“三度笠”が抜群の威力を発揮します。

所長 石川(キャンプネームは、ゴルゴ)